

大佛師

松本明慶さんの

日本の
仏像
十選

特別篇

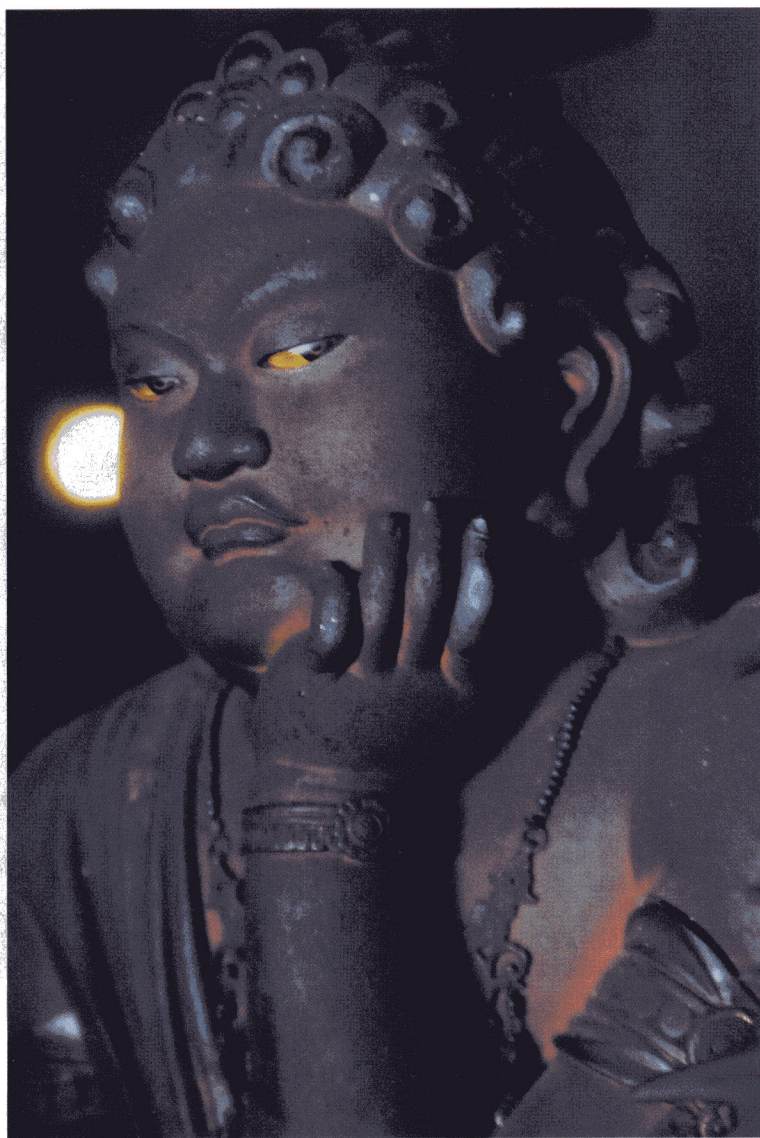
大佛師……大本山より
授与される称号。
仏師集団の頭領。

大佛師・松本明慶さんが
仏像の名品を解説する
「日本の仏像十選」では、
運慶らが活躍した鎌倉時代の
名品を中心に取りあげて
きました。今回は特別篇として、
江戸時代に制作された
奈良の宝山寺にある
名品をご紹介します。

撮影・編集部

宝山寺

制吒迦童子像



「制吒迦(せいたか)童子立像」
(像高97.9cm) 江戸時代
奈良・宝山寺蔵

のとき私は本堂に入り、今回
ご紹介する制吒迦童子像を拝
観しました。この仏像を写真
で目にしたことはあったので
すが、実物の完成度の高さ、
迫力は、写真ではとても伝え
きれないほどのものでした。

鎌倉時代の名品に勝るとも劣
らない情緒や品格、そして写
実による表現力をもつ仏像が
江戸時代につくられたことに、
驚きを隠せませんでした。
不動明王の従者である制吒
迦童子は、矜羯羅童子とも

に不動明王の脇に配され、三
尊として彫られることが多く
ある仏像です。宝山寺の本堂
でも、本尊・不動明王像を中

心に、脇侍として向かって右
に矜羯羅童子像、左に制吒迦
童子像が安置されています。
現存する多くの制吒迦童子
は元気はつらつとして、どち
らかといえどとんがったとこ
ろのあるヤンチャ坊主の風情
で動的に制作されているので
すが、ここでは杖に寄りかか
り、頬杖をつき、静かな姿で
彫られています。通常は、も
う一方の脇侍である矜羯羅童
子が温厚でやさしく分別のあ
る優等生のようにやわらかく
静的に彫られますから、この
制吒迦童子には作者の深い考
察が感じられます。

特筆すべきは、顔の正面に
向かって右側から見ると子ど
もの顔に見える(161頁参
照)一方で、左側から眺める
と思慮深い大人の顔に見える
(163頁参照) ことではしよ
う。子どもと大人、動と静が
共存しています。制吒迦童子
像の瞳は実にすばらしく、戦
国時代、殿に仕える軍師や参
謀の面持ちにも見え、不動明
王の従者として見事な存在感
を発しています。湛海律師の
創意が込められています。

かっつ
闊達な少年の顔と
思慮深い成人の
容貌が共存する仏像。

奈良の生駒山にある宝山寺
で、仏像を数点修復させてい
ただいたことがあります。そ

宝山寺にある仏像は、宝山寺を開いた湛海律師自身がプロデューサーやディレクターの役割を担って制作したと思われる。湛海律師は日本の各地でさまざまな荒行に励んだ江戸時代の僧侶で、高野山で過ごした時期があります。

制吒迦童子像の完成度の高さからいって、鎌倉時代に運慶が手がけた名作・八大童子像の一つである制吒迦童子像を高野山で見たことがあり、おそらく造仏の参考にしたことでしょう。職業仏師ではない

湛海律師がこれほどの名作を生み出したのは、生来の創作能力に加えて鋭い鑑賞眼をもち、仏像の名品を各地のお寺で観察していたことが大きく影響しているといえます。

宝山寺での造仏は、運慶ら大佛師の制作時と同様、複数の仏師が取り組んだ仕事だったことでしょう。制作にたずさわった清水隆慶という仏師の名前も、記録には残っていない

江戸時代、湛海律師が制作を指揮した 宝山寺本堂の名品、制吒迦童子像。



「矜羯羅(こんがら)童子立像」
(像高94・7cm)
江戸時代
奈良・宝山寺蔵

ます。また、仏師が木を彫ったあとの工程で活躍する塗師らの集団も、湛海律師が徹頭徹尾指揮したことで、彼が思い描く世界をそこに実現できたのだと思います。

さらに、お寺のお堂を制作する段階で見かけた腕のいい大工に、自分のイメージを伝え造仏に当たらせてきた可能性もあります。たとえば不動明王

宝山寺……延宝六(1678)年、湛海律師が入山し、大聖無動寺(だいしょうむどうじ)の名で創建。約10年後に伽藍が完成、宝山寺と改名。本尊は湛海自身が制作したと伝わる不動明王像。毎年4月1日、本堂で8000枚の護摩行が行われる。商売の神様・大聖歓喜天を祀り、「生駒の聖天さん」とも呼ばれている。

所在地 ●
奈良県生駒市門前町1-1
アクセス ●
近鉄生駒ケーブル・
宝山寺駅より徒歩約10分



の化身である俱利伽羅竜王像が迫力ある精緻な姿で、制吒迦童子像の横であたかも生きているがごとく存在しています。神社で竜の彫り物を手がけることの多い宮大工に得意な人が多い彫刻ですので、つくり手を仏師に限定せず制作を行ったとも考えられます。

宝山寺の本堂では、仏像の多様性も感じます。本尊の不動明王像は、儀軌(造仏に関する規定書)の通り、丸顔の童子の顔に彫られています、発している気魄は人間の煩惱を焼き尽くし、ことごとく淨化させてしまおうとくまじさや力強さがみなぎっています。光背の渦巻きの意匠は、醍醐寺等の仏画の不動明王像によく見られるものです。

また、本堂に祀られている仏像は、護摩行で焚かれた灰が積もって黒く煤けています。これは、美術品だから大事にしよう、重要文化財だから金庫に入れておこう、という了見ではなく、日々の祈りの対象として平成の現在も、まさに現役のみほとけとして、僧侶によって拜まれ、人々の信



本堂の制吒迦童子像と、剣をのみ込む像容の俱利伽羅竜王(くりからりゅうおう)像。

〔不動明王坐像〕
(像高82.5cm)
江戸時代
奈良・宝山寺蔵



まつもと・みょうけい
1945年、京都府生まれ。鎌倉期の
大佛師・運慶の流れを汲む慶派
の継承者。17歳で弟の死を機に
仏像を彫りはじめ、19歳で京仏
師・野崎宗慶(のざき・そうけい)
に弟子入りする。91年、大佛師
の号を拝命。木造では世界最大級
の大仏をはじめ、数々の仏像を全
国の寺院に納めるほか、国内外の
仏像の修復も手がける。

仰を一身に集めている証でも
あるのです。

**修復時
御作物に
見られる信仰心。**

江戸時代の僧侶は、一仏一
人といわれるほどに、僧侶が
自分で仏像を彫りました。私
たち仏師はこのような仏像を
御作物おきくぶつと呼んでいます。円空
(1632〜95年) や木喰もくじき
(1718〜1810年) の
ように、各地を行脚して仏像
を制作した僧侶もいました。
御作物は、近くの山で拾っ
てきた木で彫られたり、素人
が研いだ刃物で制作されてい
ることが多いため、稚拙な出
来の場合もあります。しかし、
信心深い檀家が、立派な台座
をあとから職業仏師に注文し

て制作させたものなどもあり
ます。ありがたいお坊様が彫
つてくださったと御作物を崇
め、立派な台座をつけること
で信仰心を表していたのでは
と、この時代の御作物を修復
するたびに思います。

今回お話しした宝山寺の制
吒迦童子像は、江戸時代につ
くられた名品であるとともに、
ふだん間近で拝観することが
できない仏像であるため、連
載特別篇としてご紹介しまし
た。もう一つだけ、通常は非
公開ですが、この夏に拝観す
る機会ができた仏像について
お話しします。高野山にある
運慶が手がけた八大童子像の
うち、制吒迦童子像と矜羯羅
童子像。最終回の次号でご紹
介します。